

僕なりに感じた広島派遣事業の意味

有我 唯生

僕は、この広島派遣事業に行けることになる
ってから、家族と話し合いめあてを決めまし
た。それは、「自分の目とバで感じ、学校の
友達に伝える」ことです。今までは、戦争は
ダメ、原爆は怖いし、なくしたほうかい、
平和な暮らしがあたりまえなどと頭の中では
分かっていたいました。学校で勉強をしたり、ウ
クライナとロシアの戦争はテレビで観ていま

す。けれどもどこかピンとはこなかったのだ
す。もし、戦争について話すようなことがあ
っても自信を持って話せないと思います。だ
から、この派遣事業で、何かをつかめればと
思いました。

まず、この派遣事業に行ってから自分の
目とバで感じたことを書きたいと思います。
参加をして、全ての経験が僕にとって働
撃でした。特に印象に残ったことが二つありま
す。一つ目は、広島平和記念資料館に展示され

ていた、被爆した方々の遺品や写真、絵です。遺品は、三輪車や衣類ですが、衣類はどれもズタズタでボロボロになっていました。写真や絵は、被爆後の町の風景や人々の様子、写真には、細かく説明が書いてありました。どれも、簡単に言葉にできない惨状を語っていた。ました。僕は、「一発で、一瞬にして多くの人たちの人生を壊してしまつた原爆とは何なんだ」という怒りともやもやした感情が生まれてきました。

二つ目は、平和記念式典での湯崎広島県知事の挨拶です。「核兵器を持つ国に、全人類の命に責任を持てますか」と言っていたことが印象的でした。この言葉を聞いて、「やっぱり原爆はなくさなければいけない」と強く心にきざみました。

広島から帰ってきて、家族とこの派遣事業について話しをしました。平和記念式典のテレビ中継を録画をしていたので、それを観ました。お父さんが、「今まで、式典を最後まで

を観たことはなかったよ、唯生にしても、このような映像が流れていても、ゲームとかをやっていてきちんとして観ることはなかったと思うよ。だから、参加できたことには意味があるんだよ」と言っていました。僕もそう思います。また、「長崎の平和記念式典が台風の影響で室内で行った。そんなことをニュースで知り家族に伝えることができました。

今回のためあって、「自分の目と心で感じ、学校の友達に伝える」は、戦争はよくない、原

爆は絶対になくすという自信を持つてはつきりと言えます。僕が身近な人に伝え、平和へのかけ橋になりたいです。こ人なに強く思えるのは僕が広島で感じることでできたからです。今回、このような経験をさせていたたきありかとうございました。